

事業報告書（令和 6 年度）

事業名 外国の遊びを通して多文化共生の理解へ

団体名 INE 居場所作りネットワーク

担当者名 大倉美恵

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時：2025 年 2 月 22 日（土） 10:00～11:30

会場：岡山県青年館

参加対象者：外国にルーツのある親子・日本人親子

人数：参加者 52 人 講師 3 人 スタッフ 10 人

参加国・地域：10 カ国（日本・ベトナム・イエメン・ガーナ・パキスタン・トルコ・アフガニスタン・韓国・オーストラリア・中国にルーツのある親子）

内容：(1) せかいのことは：会場にいる外国人とその国のあいさつの言葉を知り、互いに挨拶をする

(2) 外国の遊びを体験する：イエメン・ガーナ・ベトナムの遊びブースを回ってシールを集める

(3) シール集めの結果を発表

(4) アンケート記入

会場の様子



遊びの先生



イエメンの遊び（ワガル）



イエメンの遊び（ワガル）



ガーナの遊び（バンドゲーム）



ガーナの遊び（バンドゲーム）



ベトナムの遊び（牛の工作）



ベトナムの遊び（牛の工作）



2. ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

岡山市にもたくさんの外国人と外国にルーツのある子どもがいることに気づき、外国の挨拶や遊びを通して外国への理解が進んだ。アンケートを実施したが、「外国のことばで挨拶ができましたか？」の問いに 100%の人が「できた」と答えており、新しい外国の言葉を使うことができた。

②どのように学び合いを取り入れたか

「外国の遊び」講師を在留外国人の INE 参加者等に依頼して、日本社会での活躍体験をすると共に、日本人がその活躍による楽しみを感じて双方向の理解を進める。参加者をグループ分けにして、グループの外国人とその国の挨拶をし合うことで外国への理解を目指す。在留外国人も日本人も同じグループで一緒に楽しむことにより「心の壁」を低くする。ブースでは外国人講師にシールをもらったり、会場で外国語で挨拶ができればシールをもらうなど、「シール集め」活動を共有することで共有意識を涵養する。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

参加者に「せかいのことば」（資料）を配布して会場にいる外国人とその言葉を使ってコミュニケーションを図った。学んだことをアウトプットして関係性を作る体験をすることにより、外国人への「心の壁」を低くし、今後の暮らしの中でも外国人に自ら働きかける力を育てることを目指した。外国人にとっても、「教えてもらう側」から「教える側」の経験を通して、日本社会での参加・参画ができるという自信を持つことにつなげる。最後に参加者に「ハラル」のお菓子の説明をしてお土産として渡すことで、なかなか直接的に知ることが少ない「イスラム教」への理解を「食」という直接体験に繋げて進めるようにした。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

「出会いの場」と「出会うことでの楽しみを体験する」ことを目指したが、イベント後のアンケートに「外国の人と話ができましたか」との質問には79%が「できた」との回答を返している。ただ短時間の1回の出会いではまだ十分とは言えないが、アンケートの自由記述に「また参加したい」「何度も参加できる機会があると良い」との声がいくつもあり、楽しさを体験してもらったことともっと出会いの機会を望んでいることがわかった。講師の外国人より「楽しくてもっと伝統的なゲームを紹介したい気持ちになった」「担当して楽しかった」「子どもたちにベトナムの懐かしい遊びをおしえられてよかった」との反応があり、自分の力を発揮して楽しく次回への意欲が生まれた。

以上より、今回在留外国人と日本人との出会いの場として楽しみを共有できたこと、在留外国人の日本社会への主体的参加経験と次につながる意欲の喚起ができた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

このような「出会いの場」を何度も重ねることでお互いの存在を認め、「心の壁」を自ら取り除くように働きかけるための学びができる。まだ日本人から外国人に働きかけることへのとまどいが見えるが、将来的にも外国人と相互に協力できることは、多様性を包括した豊かな岡山市社会へと繋がる。経済的にも防災的にも外国人と共にある社会構築は必要なことであるので、今後もそのような社会構築に貢献したい。